

授業科目名		対象学科・専攻	年次	期別
保育内容の指導法(環境) Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Environment)		児童教育学科 幼児教育学専攻	2年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	教員免許状取得 必修/選択必修	担当教員	担当形態
演習	1	必修	安藤 稔朗	単独

科目	施行規則に定める科目区分又は事項等
領域及び保育内容の指導法に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
<p>○コアカリキュラム：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）</p> <p>全体目標：幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>(1) 各領域のねらい及び内容 一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 到達目標：1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2) 当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4) 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2) 保育内容の指導方法と保育の構想 一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 到達目標：1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 2) 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>	

【全体目標及び概要】	
<p>幼児教育と環境、幼児の発達と環境、幼児と環境とのかかわりについて学ぶ。 自然や社会の事象などの身近な環境に積極的にかかわる力を育てるための基礎知識を身に付ける。 子どもの主体的な活動が確保されるための環境構成の基本について学ぶ。</p>	
【一般目標及び到達目標】	目標対応
(1) 領域「環境」のねらいや内容を踏まえた指導の考え方を理解している。 1) 幼児の実態を考慮したねらいと、内容を実現するのにふさわしい環境について説明できる。	(1)-1)
2) 幼児期の教育・保育は、環境を通して行うことを基本とするが、具体的にはどのようなことを意味するのか説明できる。	(1)-2)
3) 保育のなかで変容していく幼児の姿から、幼児理解に基づく評価について説明できる。	(1)-3)
4) 幼稚園における生活が家庭や地域社会と連携を円滑に行うために何が重要かを説明できる。	(1)-4)
(2) 調和のとれた組織的、発展的な指導計画の作成について理解する。 1) 保育をよりよいものとしていくために、活動の具体的なねらいと内容を検討して指導計画を作成する力を身に付ける。	(2)-1)、5)
2) 子どもの発達を見通した短期と長期の指導計画について説明できる。	(2)-5)
3) 子どもの自発的活動を引き出し、長期的に発達を見通した指導計画の作成について説明できる。	(2)-3)
(3) 情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、幼児の興味・関心や発達の実情に応じた適切な指導・援助のあり方を説明できる。 1) 幼児の感性、表現力を豊かに育むための指導上の留意点、配慮事項が説明できる。	(2)-4)
2) 子どもの生活経験や発達に応じ、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。	(2)-2)

3)子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで生じる疑問を、適切な援助を行うことにより、探究へと導く力を身に付ける。		(2)-4)	
4)子どもの行う活動が、個人、グループ、学級全体など多様に展開される過程で、個と集団に対応する力を身に付ける。		(2)-4)	
5)保育はオーダーメイドデザインという発想のもとに、環境構成と環境に込められた保育のデザインを工夫する力を身に付ける。		(2)-4)、5)	
回数	保育内容の指導法(環境) 授業内容 【安藤稔朗】	到達目標の番号	コアカリキュラム対応
1	環境を通して行う保育の基本を理解する。	(1)-1)、(1)-2)	(1)-1)、2)
2	子どもが生活や遊びのなかで身近な環境とどのようにかかわりながらどんな発達をしていくか、保育映像を通して理解する。	(1)-1)、(1)-2)、(3)-4)	(1)-1)、2) (2)-4)
3	子どもが身近な環境とかかわるなかで「環境とかかわる力」の発達を支えているものについて理解する。	(1)-1)、(1)-2)、(1)-4)	(1)-1)、2)、4)
4	環境を構成する人や身近な動植物とのかかわりについて保育場面の映像から具体的に理解する。 身近な生き物をビデオカメラで撮影し、体のしくみや動き、成長過程をタブレットで見せる等、保育場面でのICTの活用を考える。	(3)-2)、(3)-3)、(3)-4)	(2)-2)、4)
5	環境を構成する身近な物とのかかわりについて理解する。 －身近な素材の収集とおもちゃ製作－	(3)-2)、(3)-3)	(2)-2)、4)
6	環境を構成する身近な自然とのかかわりについて理解する。 －生物の飼育、植物の栽培－	(3)-2)、(3)-3)、(3)-5)	(2)-2)、4)、5)
7	数量や図形、標識や文字などに関心をもつための教材とその活用方法を理解する。	(3)-2)、(3)-3)	(2)-2)、4)
8	地域の施設やさまざまな情報、行事などに興味や関心が高まるよう情報機器を活用した映像資料を作成する。	(1)-4)	(1)-4)
9	環境を通して行う幼児教育の教育課程・指導計画について学ぶ。	(2)-1)、(2)-2)、(2)-3)	(2)-1)、3)、5)
10	短期の指導計画と長期の指導計画を理解する。	(2)-2)、(2)-3)	(2)-3)、5)
11	指導計画の作成における環境の構成と情報機器・教材の活用について理解する。	(3)-2)、(3)-5)	(2)-2)、4)、5)
12	幼児期の終わりまで、発達の過程に寄り添いながら、長期的な視点をもって環境を構成していくことを保育映像から理解する。	(3)-1)、(3)-4)、(3)-5)	(2)-4)、5)
13	幼児の周りにある環境について、その特性や価値を知り、実際の保育のなかで適切に活用できるようICTを活用して教材を作成する。	(3)-2)、(3)-5)	(2)-2)、4)、5)
14	環境とのかかわりを促すアイデアを保育活動に活かした指導案を作成する。	(3)-1)、(3)-2)、(3)-5)	(2)-2)、4)、5)
15	身近な自然に関わる模擬保育を行い保育環境を改善するための反省と評価を行う。	(1)-3)	(1)-3)
定期試験	実施する		
成績評価方法	授業への取り組み・作品の製作(関心・意欲・態度)20%、レポート(思考力・判断力・表現力)20%、定期試験(知識・理解)60%		
テキストおよび参考文献	テキスト：・幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省) 安藤稔朗『保育内容の指導法(環境)』山口短期大学 参考文献：酒井幸子・守功『保育内容 環境』萌文書林		
メッセージなど	子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで、その活動が充実するように、興味や関心、発達の実情などに応じた適切な指導・援助のあり方について学んでいきましょう。		

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼児の実態を考慮したねらいと、内容を実現するのにふさわしい環境について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(1)-2) 幼児期の教育・保育は、環境を通して行うことを基本とするが、具体的にはどのようなことを意味するのか説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。		10%
(1)-3) 保育のなかで変容していく幼児の姿から、幼児理解に基づく評価について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。		10%
(1)-4) 幼稚園における生活が家庭や地域社会と連携を円滑に行うために何が重要か説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。		10%
(2)-2) 子どもの発達を見通した短期と長期の指導計画について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。		10%
(2)-3) 子どもの自発的活動を引き出し、長期的に発達を見通した指導計画の作成について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。		5%
(3)-1) 幼児の感性、表現力を豊かに育むための指導上の留意点、配慮事項が説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。		5%
(2)-1) 保育をよりよいものとしていくために、活動の具体的なねらいと内容を検討して指導計画を作成する力を身に付ける。	指導計画を作成する力をほぼ完璧に身に付けている。	指導計画作成の基本を身に付けている。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	身に付けていない。	授業への取り組み・作品の製作(関心・意欲・態度)	10%
(3)-2) 子どもの生活経験や発達に応じ、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。	環境を構成する力をほぼ完璧に身に付け、教材の工夫もできる。	環境構成の基本を身に付け、教材の工夫もできる。	環境構成の基本は身に付けたが、工夫する力は努力を要す。	身に付けていない。		5%

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(3)-3) 子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで生じる疑問を、適切な援助を行うことにより、探求へと導く力を身に付ける。	探求へと導く力をほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、探求へと導く力を身に付けている。	適切に援助できるが、探求へと導く力は努力を要す。	身に付けていない。		5%
(3)-4) 子どもの行う活動が、個人、グループ、学級全体など多様に展開される過程で、個と集団に対応する力を身に付ける。	個と集団に対応する力をほぼ完璧に身に付けている。	個と集団に対応する力は部分的に身に付けている。	多様な活動は調整できるが、個と集団への対応は努力を要す。	身に付けていない。	レポート(思考力・判断力・表現力)	10%
(3)-5) 保育はオーダーメイドデザインという発想のもとに、環境構成と環境に込められた保育のデザインを工夫する力を身に付ける。	保育のデザインを工夫する力をほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、保育のデザインを工夫する力を身に付けている。	環境構成の基本は身につけたが、保育のデザインを工夫する力は努力を要す。	身に付けていない。		10%